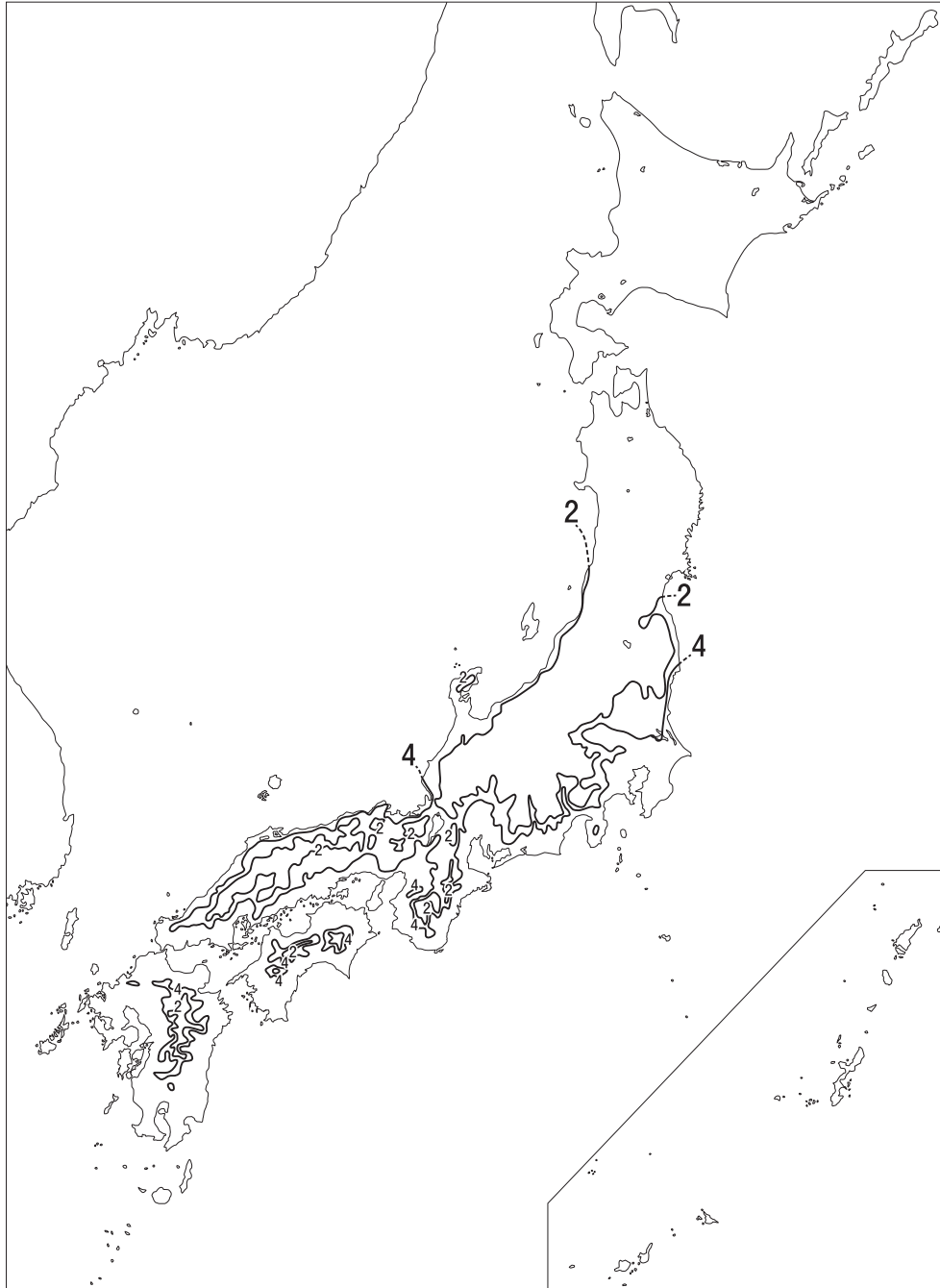


4 自然環境, 防災, 地図に関して, 問1～問4に答えよ。

問1 ユウマさんは, 日本の自然環境について興味を持ち, 資料1と資料2を得た。これらの資料を読み取った文として不適切なものを, あとの①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 13 。

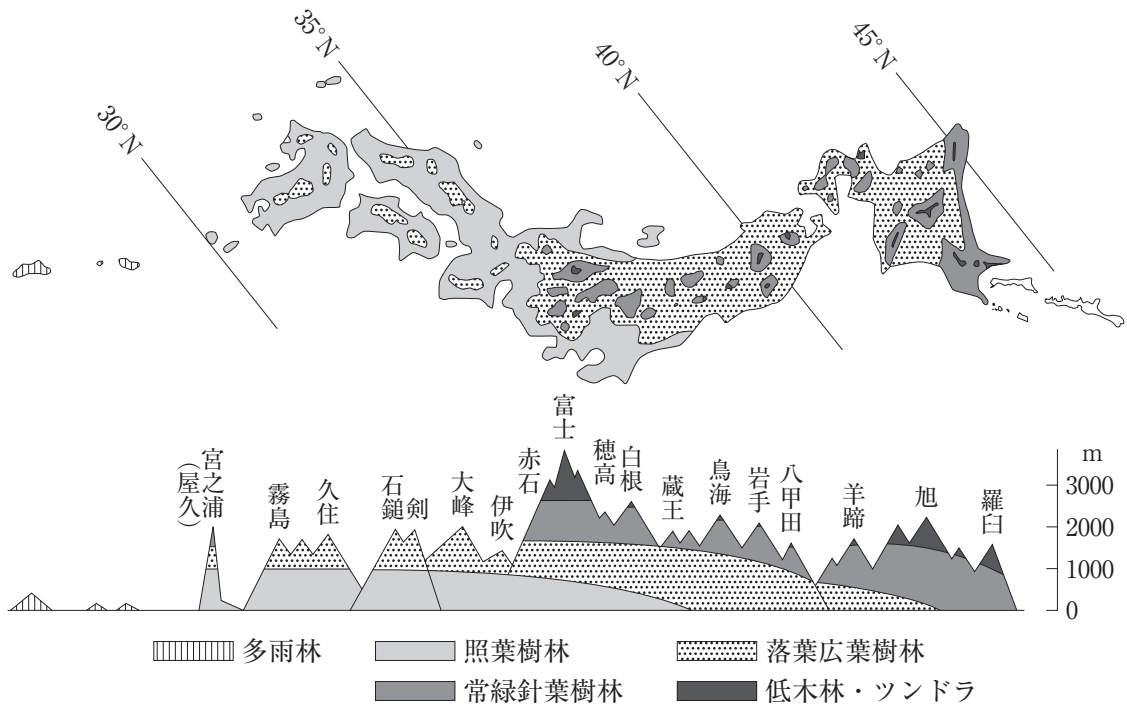
資料1 2月の平均気温2℃と4℃の等温線



注) 北方領土についてはデータなし。

(http://www.gsi.go.jp/atlas/archive/j-atlas-d_2j_10.pdf により作成)

資料2 日本の森林分布



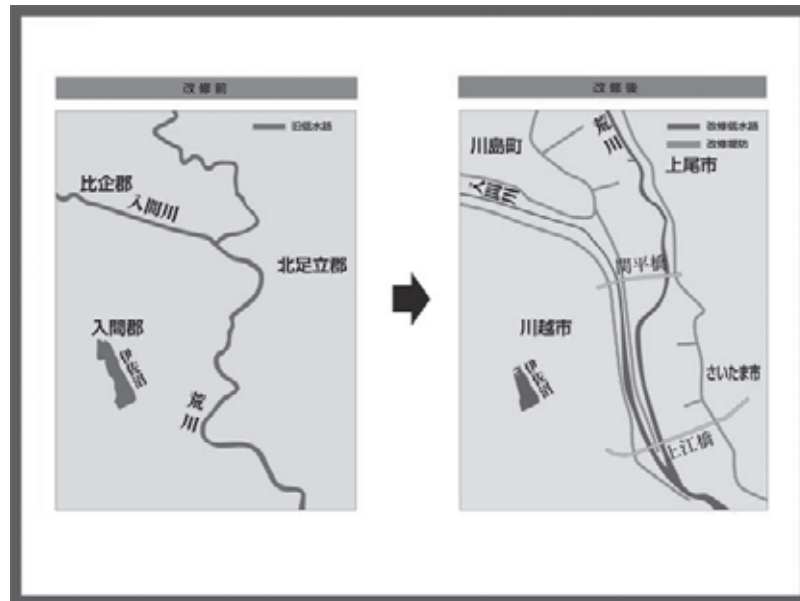
注) 北方領土についてはデータなし。

(http://www.shinin-ringyou.com/forest_japan/bunpu.php により作成)

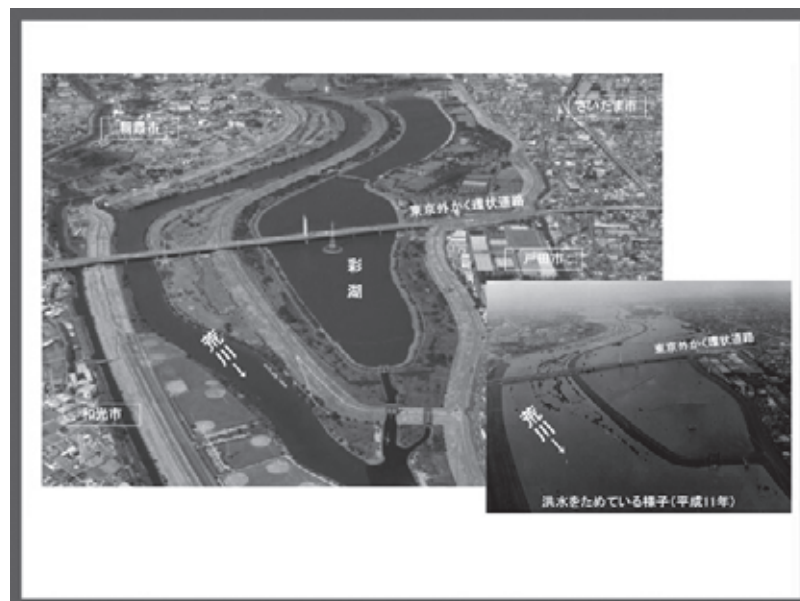
- ① 資料1から、2月の北海道では平均気温が2℃以上の地点がないことが分かる。
- ② 資料2から、低木林・ツンドラは北海道と本州には分布が見られるが、四国と九州には見られないことが分かる。
- ③ 資料2から、山頂がほぼ同じ標高である霧島と羅臼を比較すると、どちらも同じ凡例で示された森林が分布することが分かる。
- ④ 資料1と資料2から、照葉樹林と落葉広葉樹林の境は、おおむね2月の平均気温が2℃と4℃の等温線にはさまれた範囲内を通過していることが分かる。

問 2 ユウマさんは、埼玉県から東京都へ流れている荒川について興味を持ち、資料 3 と資料 4 を得た。これらの資料から読み取ったア、イの文章中について、それぞれの下線部の正誤の組合せとして最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

資料 3 入間川との合流点・支流の三川合流点



資料 4 荒川第一調整池



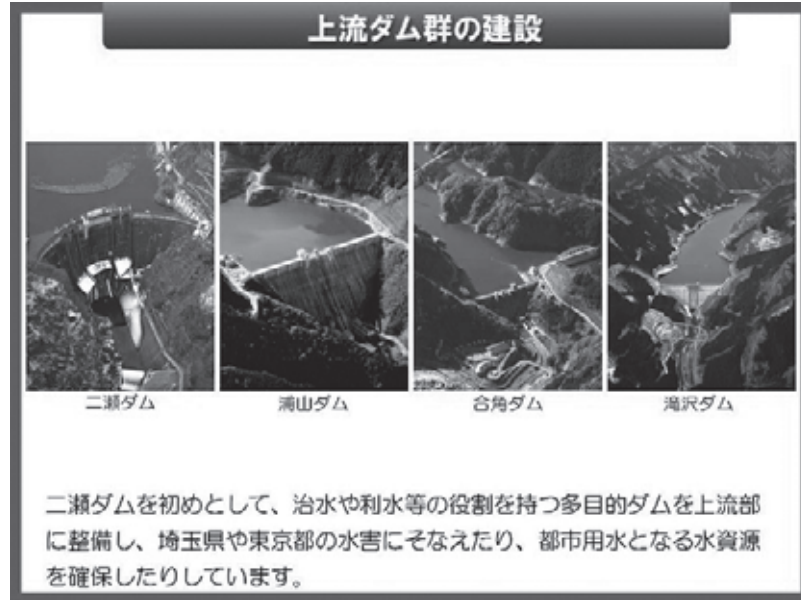
(<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00583html> により作成)

- ア. 資料3から、荒川は、蛇行していた流路が改修工事によって直線化されたとともに、緩やかな角度で入間川と合流するようになった。
- イ. 資料4から、荒川の中流域にある、荒川第一調節池は、下流域に水を安定して届ける利水機能をもつほか、増水時には一時的に水をためる治水機能をもつ。

	①	②	③	④
ア	正	正	誤	誤
イ	正	誤	正	誤

問 3 ユウマさんは、荒川上流部にあるダム調査をきっかけに、ダムの果たす役割について興味を持ち、資料5～資料7を得た。これらの資料を基に、読み取った文として不適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

資料5 荒川上流部のダム群



(国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所ホームページ 1分でわかる！ 荒川上流部改修 100年による)

資料6 青森県にある津軽ダムの歴史

1960年に完成した目屋^{めや}ダムは、約55年にわたり岩木川流域を洪水から守り、下流部のかんがい用水の補給や発電の役割を担い、津軽地方の発展に大きく寄与してきました。

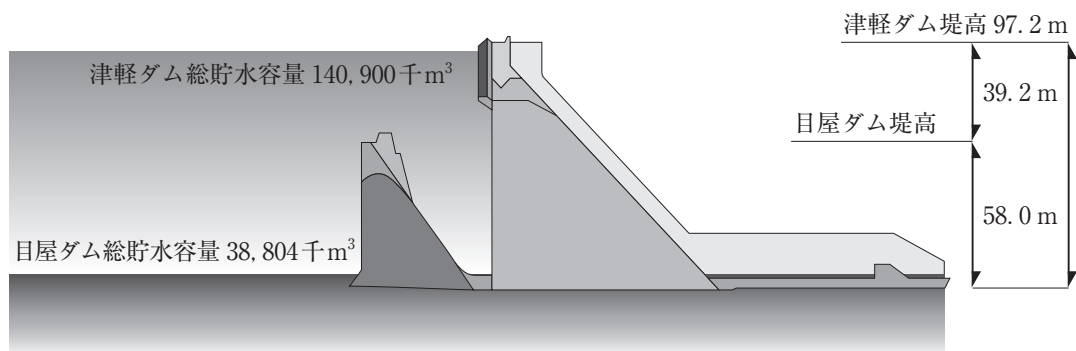
ダム完成以来、157回の洪水調節を行い、このうち計画高水流量を上回る洪水が25回ありました。また、利水面での需要の増加が見込まれることから、目屋ダムの再開発事業として、ほぼ同じ位置に、より大きな津軽ダムを建設することに至りました。

目屋ダムと津軽ダムの比較

	目屋ダム	津軽ダム
目的	洪水調節, かんがい, 発電	洪水調節, 流水の正常な機能の維持 かんがい, 水道, 発電
集水面積	172.0 km ²	172.0 km ²
完成年月	1960年3月	2016年10月

(http://www.thr.mlit.go.jp/tugaru/specifi/tugaru_hispe.html により作成)

資料7 目屋ダムと津軽ダムの断面図の比較



(http://www.thr.mlit.go.jp/tugaru/specifi/tugaru_hispe.html により作成)

- ① 資料5から、荒川上流部には、二瀬ダムをはじめとする多数の多目的ダムを建設し、下流域の水害に備えていることが分かる。
- ② 資料6から、目屋ダムと津軽ダムは、岩木川流域の洪水対策だけではなく、発電やかんがいなどを目的として建設されたことが分かる。
- ③ 資料6と資料7から、過去の災害や周辺地域の水需要を踏まえて、津軽ダムの総貯水容量は、目屋ダムの総貯水量の3倍以上に増加していることが分かる。
- ④ 資料6と資料7から、新たに建設された津軽ダムは、目屋ダムの堤高より39.2 m高くなったことで、集水面積も大きく広がったことが分かる。

問 4 ユウマさんは、荒川上流部にある長瀬川^{ながとろ}下りを体験するために、資料 8 と資料 9 を得た。

これらの資料を読み取った文として不適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 16 。

資料 8 長瀬川下り周辺の地形図



(国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図「鬼岩」, 平成 27 年発行による)

資料9 長瀬川下りガイドマップ



(長瀬ラインくんだりパンフレットによる)

- ① 資料8には、宝登山ロープウェイが描かれているが、資料9には描かれていない。
- ② 資料8と資料9のいずれも、「岩畳満喫くんだり」の運航ルートと所要時間が確認できる。
- ③ 資料8では地図上の上方向が北を示すが、資料9では地図上の上方向が北を示していないことが分かる。
- ④ 長瀬川下りのチケット売り場の位置は、資料8から読み取ることができないが、資料9では分かる。

5 生活圏の地理的諸課題と地域調査について、問1～問4に答えよ。

問1 ショウコさんは、兵庫県神戸市の市街地の変化に興味を持ち、資料1と資料2を得た。資料1のア～エの変化について読み取った文として不適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

資料1



(国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図「神戸首部」, 昭和 44 年発行に一部加筆)